

広報誌で紹介した写真または
データを希望者に提供します。

●お申し込み●

秘書課広報広聴係 ☎ 23-3069 へ



J R 石狩太美駅整備に感謝

(3月19日)

J R 石狩太美駅を利用する町民の長年の要望であった「ホームと車両の段差解消」と「プラットホームの上屋設置」が昨年12月に完成し、J Rを利用する町民有志を代表して、西当別連絡協議会（高島勇一会長）の主催で感謝の集いが西当別コミュニティセンターで開催されました。

当日は、J R 北海道の坂本真一会長を初めたくさんの来賓をお招きし、約350人の町民が完成をお祝いしました。

同協議会の高島会長は「今回の改修に感謝しています。J Rは地域の活性化の大きな力になっています」とJRに感謝を述べ、J R 北海道の坂本会長は「当別町にはユニークなまちづくりを期待しています。私も学園都市線を守っていかねばならない」と挨拶されました。

また、会場では、当別の特産品を味わいながら札沼線の歴史と整備経過をスクリーンで上映するなどしました。



ヤンキー先生のドラマをロケ撮影

(3月5日)

3月に北星学園余市高校を退職した、ヤンキー先生こと義家弘介さんのドラマロケが弁華別小学校で行われました。TBSスペシャルドラマ「ヤンキー母校に帰るSP不良少年の夢」(3月27日放映)で、義家さんの高校生時代を撮影。義家さん扮する人気グループ「嵐」の桜井翔さんが、校舎の2階から中庭の雪山に飛び込むシーンなどの撮影で、高校生役に町民もエキストラ出演しました。ロケを支援する当別夢倶楽部21フィルムコミッション（高松正人会長）のメンバーは、雪を降らせたり、雪山を作ったりと現場の準備を行うなど、汗を流していました。



女性パワー全開「女性のつどい」

(3月1日)

町女性団体連絡協議会（村上スミ子会長）が、町内女性の交流を目的とした「当別町女性のつどい」を白樺コミュニティセンターで開き、商工会女性部、J A女性部、町内会婦人部など所属団体や一般女性など約200人が集まりました。

HBCアナウンサー松永俊之さんが「人生、晴れたり曇ったり」と題し、ご自身の体験を交えた講演を行った後、所属6団体の活動報告が行われました。地域活動や交流事業の発表、活動内容を寸劇で紹介するなど女性ならではのアイデアを凝らした発表に会場も和やかな雰囲気になっていました。



お手柄中学生 4人を表彰

(3月10日)

3月1日、スウェーデン橋から誤って川に転落した小学生を救助した、西当別中学校の後藤賢太君、川本拳君、西野裕大君、小田真君(共に3年生)の4人に西当中の全校生徒が見守るなか、当別消防署長より感謝状が手渡されました。

4人は、下校途中に偶然騒ぎを聞き、橋の脇の急斜面を駆け下りて、深さ50~60cmの川の中からずぶぬれになっていた小学生を素早く救助しました。



町内のボランティア実践者や関心のある人が集う「春のボランティアの集い」がゆとろで開かれ、130人が交流しました。町福祉協議会が「ボランティアの輪を広げ、そっと寄り添えるまち当別」を目指そうと

毎年行っているもので、旭川市民ボランティア会議の代表・藤井英規さんの講演や、「ボランティアとまちづくり」をテーマにしたフォーラムに参加者は熱心に聞き入っていました。

また、お昼にはボランティア連絡協議会の手作り料理で交流を和やかに深めていました。



春のボランティアの集い

(3月5日)



農業から地域の活性化を

(3月18日)



農業改良普及センター(西原良一所長)が主催する石狩北部「担い手フォーラム」が白樺コミュニティーセンターで開かれ町内外から約70人が参加しました。

北海道農業士協会長の津島朗さんが、地元音更町で展開する農業経営スタイルや地域との関わり方などを講演しました。また、北海道指導農業士に認定されている佐藤彰さん(金沢)と重原昌章さん(弁華別)がパネルディスカッションのパネリストとして参加し、農業経営や地域活性化の思いを述べました。

地域と企業に心血 永年勤続者表彰

(3月2日)



町商工会(河村佳男会長)は、永年勤続優良従業員表彰を商工会館で行い、満5年から40年の勤続者68人に表彰状と記念品を渡しました。

河村会長は「活力ある企業と地域の発展にこれまで以上の活躍を期待します」と式辞を述べました。

また、受賞者を代表して角光茂さん(北成建設勤続35年)が「この感激を忘れず、商工業の発展と明るい町づくりに努力します」と述べ、感謝とこれからの決意を新たにしていました。